【週刊タバコの正体】

Vol.27 第4話～第7話

2014/02　和歌山工業高校　奥田恭久

■Vol.27

(No.371)　第4話　喫煙ルームの需要

－次は宿泊施設の禁煙化

現代、タバコに好意的な人はかなり少なくなってきています。それは、タバコは人体に有害だという事が世の中全体に浸透してきているからでしょう。同時に、喫煙者のタバコの煙を吸わされてしまう“受動喫煙”の危険性も多くの人が知るようになってきていますからね。そして、そんな危険性に関係なく生理的にタバコのニオイが苦手だとか、嫌いだという人も相当多いと思います。...

じつは、ある宿泊施設情報提供サイトの「禁煙ルームの需要」に関するアンケート調査の結果（下図グラフ）が、そんな実情を裏付けています。客室のタバコのニオイが「大いに気になる」と「やや気になる」を合わせると８８.７%もいるのに対して「気にならない」人は１１.３%しかいません。...

(No.372)　第5話　風味の感じ方

－禁煙すると食事がおいしくなる

タバコの煙は口から吸い込みますが、手にしたタバコから立ち上る煙は鼻から入ってきます。その煙には有害な化学物質がいっぱい含まれているので、喫煙者の口や鼻はタバコを吸うたびに過酷な状態にさらされます。口と鼻には、私たちの日常生活に欠かせない“味覚”と“嗅覚”が備わっているのに、こんな状況にしてしまうのは良くありません。...

(No.373)　第6話　眼の病気

－タバコは眼にも悪影響を与えます

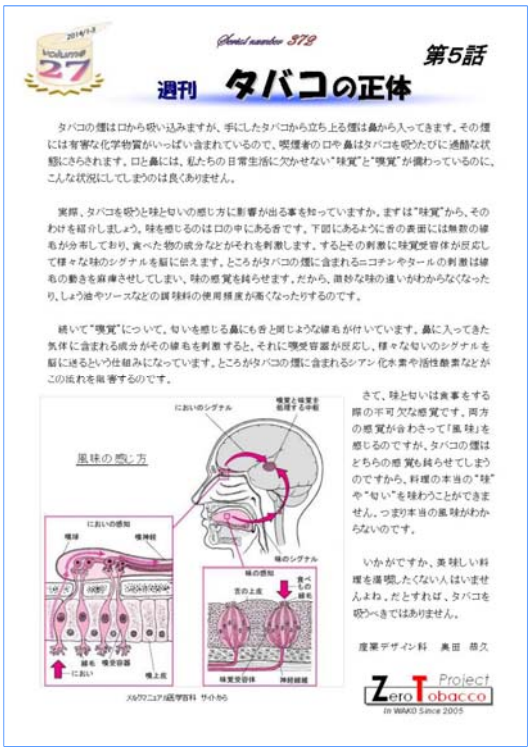
タバコを吸い続けると、身体の様々なところにダメージが蓄積されます。歯や歯ぐき、肺、血管、心臓・・・・。その結果、肺がんや脳卒中、心筋梗塞などの病気になり命を失う場合が少なくありません。そればかりか日常生活においては、“味覚“や”嗅覚“にも影響する事も紹介しましたね。そしてさらに、タバコはなんと”視覚“をつかさどる”眼“にもダメージを与える場合があるのです。...

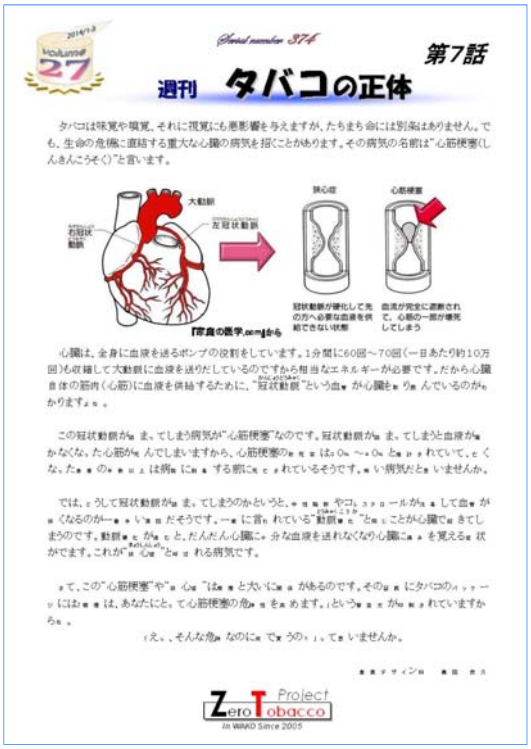
(No.374)　第7話　心筋梗塞と狭心症

－パッケージに「喫煙は心筋梗塞の危険性を...」と

タバコは味覚や嗅覚、それに視覚にも悪影響を与えますが、たちまち命には別条はありません。でも、生命の危機に直結する重大な心臓の病気を招くことがあります。その病気の名前は“心筋梗塞（しんきんこうそく）”と言います。

心臓は、全身に血液を送るポンプの役割をしています。１分間に６０回～７０回（一日あたり約１０万回）も収縮して大動脈に血液を送りだしているのですから相当なエネルギーが必要です。だから心臓自体の筋肉（心筋）に血液を供給するために、...





毎週火曜日発行

Zero Tobacco Project In WAKO Since 2005

URL：http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のＨＰでご覧下さい。

※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。